

Ⅱ 調査結果の概要

【概況】

平成29年度学校保健統計調査の結果は以下のとおりです。

1 滋賀県の傾向

身長および体重は、男子、女子ともに昭和30年度以降緩やかな増加傾向にありましたが、平成に入ってから横ばいで推移しており、平成29年度も同様の傾向にあります。

2 身長および体重の全国順位と全国平均値との比較

身長は、男子は7歳～9歳、11歳および14歳～17歳で全国平均値を上回りました。女子は5歳、7歳および13歳～17歳で全国平均値を上回りました。都道府県別の全国順位は、年齢により2位から39位とばらつきがみられました。

体重は男子、女子ともにほとんどの年齢で全国平均値を下回り、都道府県別の全国順位でも下位の順位となりました。

(都道府県別の全国順位)

全国第2位・・・16歳男子身長

全国第3位・・・9歳男子身長

全国第45位・・・12歳男子体重

全国第47位・・・10歳女子体重、12歳女子体重

3 発育状態の世代間比較

男子の身長および体重ならびに女子の身長は多くの年齢で、30年前（昭和62年度調査）の県平均値を上回っていますが、女子の体重は多くの年齢で30年前の県平均値を下回っています。

30年前の体格との差が最も大きい年齢は、男子は身長が12歳、体重は7歳および12歳でいずれも30年前を上回っています。女子は身長、体重ともに11歳で30年前を上回っています。

4 年間発育量の世代間比較

平成29年度調査の「平成11年度生まれの者」（子世代）と、30年前の昭和62年度調査の「昭和44年度生まれの者」（親世代）について、6歳から17歳までの各年齢間における身長、体重の年間発育量を比較すると、身長の最大の年間発育量を示す時期は、男子では子世代が親世代より早い時期となっています。一方、女子では、両世代とも同じ時期となっています。体重の最大の年間発育量を示す時期は、男子、女子ともに子世代が親世代より早い時期となっています。

5 肥満傾向児および痩身傾向児の出現率

肥満傾向児の出現率は、男子、女子ともにほとんどの年齢で全国平均値を下回っています。都道府県別の順位は、男子は9歳、10歳および16歳、女子は8歳、10歳および12歳が全国第47位でした。

一方、痩身傾向児の出現率は、全国平均値と比べると、男子、女子ともに各年齢でばらつきが見られ、都道府県別の順位も第1位から第38位まで幅広く分散しています。

(都道府県別の全国順位)

肥満傾向児の出現率

全国第47位・・・9歳男子、10歳男子、16歳男子、8歳女子、10歳女子、12歳女子

痩身傾向児の出現率

全国第1位・・・12歳男子 全国第2位・・・11歳男子

全国第5位・・・10歳男子 全国第6位・・・10歳女子、12歳女子

全国第38位・・・8歳男子、17歳女子

6 主な疾病・異常の被患率等

幼稚園および小学校における「裸眼視力1.0未満」の者の割合は、全国平均値を下回っています。

また、「眼の疾病・異常」、「耳疾患」、「鼻・副鼻腔疾患」、「蛋白検出」および「ぜん息」の者の割合は、全ての学校種別で全国平均値を下回っていますが、「心臓の疾病・異常」の者の割合は、全ての学校種別で全国平均値を上回っています。

「むし歯（う歯）」の者の割合は、平成22年度から全ての学校種別で減少傾向にありましたが、今年度は高等学校で増加となりました。